



巻頭言

理事長・院長あいさつ

医療法人社団英明会 大西脳神経外科病院
理事長・院長 大西宏之

2023年4月コロナが明けて新体制となり、はや二年が経過しました。色々と戸惑いもある中、なんとか一歩ずつ着実に診療実績を伸ばすことができいております。これは皆様方の日頃のご支援の賜物かと存じますのでまずは御礼申し上げます。

さて、新体制からの2年を振り返ってみますと、東播磨地域の方々に対して病院として、医療法人として、どのように貢献していくのかということを常に考え、「医療安全危機管理対策」、「自立した人材の育成・獲得」、「最先端医療の技術向上」という3つの柱を掲げ様々な取り組みを行いました。「医療安全危機管理対策」の分野においては、まずは医療安全文化を根付かせるため、この2年間全国89病院のベンチマークとの比較を行い、当院の傾向を把握し、当院の強み、弱みを明確にしました。そして今後はそれら改善点を見直し、風通しの良い組織風土への改革として取り組んでいきたいと考えています。続いて「人材育成」に関しては人材育成と人材獲得の両面でアプローチしています。人材育成については、新人教育、ドクター教育、次世代のリーダー層の育成、というところを中心に、教育カリキュラムの見直しや院内勉強会の充実を図るようにしました。ドクター教育においては開院してから一貫して、専門資格の積極的な取得を推進するだけでなく、リサーチマインドを育む目的で現在もクリニカルリサーチカンファレンスを継続しています。次世代のリーダー層の育成においては、なかなか一筋縄にはいきませんが、経営層と共通認識を持って、病院の発展のために広い視野で行動できる人材を育てていければと考えています。一方、人材獲得においては、人材派遣に頼ることなく自前で人材獲得ができるようなシステム作りを行なっています。新卒者の獲得、既卒者の獲得、また、離職防止に向けた内部環境の改善チーム、という3本柱で現在プロジェクトを進めています。その一環で、本年4月に病院ホームページも全面リニューアルしましたので、今後はより多くの情報発信ができればと思います。

そして最後に「最先端医療の技術向上」という点では、医療の質を向上するということは勿論なのですが、それだけではなく業務効率、医療効率の改善も意識して、昨年のMRI機器の更新に始まり、今年は新しい電子カルテの導入をし、さらには近年、いろいろな病院で取組まれているスマートフォンを活用した「スマートホスピタル構想」にも着手していきたいと考えています。

そして最後に法人としての取り組みですが、今年はずいに2025年問題が現実となる年です。団塊の世代が後期高齢者に突入することに伴い、高齢者の医療や介護が一層重要視され、私たちが直面する課題はますます多岐にわたることが予想されます。国民の約3人に1人が65歳以上になるといわれ、2021年時点で462万人と推計されていた認知症高齢者は、2025年を迎えると約700万人（高齢者の約5人に1人）に増える見込みで、今後もさらにその傾向が強くなってきます。また我々のような現役の医療従事者が年々減少してくる中、人材確保および一人ひとりの負担を減らす労働環境の改善が喫緊の課題となってきます。我々は日々多くの高齢者や認知症患者を対象としている性質上、このような社会情勢に柔軟に対応していかなければならず、今後2040年までこのような状況が続いていくことが予想されますので、急性期医療だけでなく、回復期や在宅医療などより一層の医療体制の充実を図り、高齢者の皆様が安心して暮らせる地域づくりを目指していきたいと考えています。そこでその第一歩として昨年半年かけて回復期病床50床から60床への増床工事を行い、今年の1月から本格稼働しています。さらには脳卒中相談窓口の機能拡充や地域支援の一環として市民公開講座や、昨年コロナ明けに久々に開催したオープンホスピタル、看護フェアなどにも今後も継続して取り組んで参ります。

このように当院ではさまざまな取り組みを行なっていますが、この年報は、これまでの道のりや今後の展望を示すとともに、私たちが未来に向けて向かう姿勢をまとめたものですので、ご高覧頂けましたら幸いです。

